



藤井 孝宗 准教授

【ふじい たかむね】

横浜市出身。慶應義塾大学経済学部・大学院経済学研究科卒業後、愛知大学経営学部専任講師、准教授を経て現職。専門は国際経済学。国際経済学者たるもの国際的に活動しないと、と年1回は海外出張するようにしています。

- 国際経済学Ⅰ・Ⅱ
- 市場と経済A

国際経済学の魅力と重要性

研究テーマ

私の研究分野は国際経済学と呼ばれる分野になります。国際経済学とは、名前の通り世界全体の経済の動きについて分析する学問ですが、大きく2つに分けられます。ひとつはモノ、人、企業などの流れ（実物経済）を分析する国際貿易論、もう一つは資金の流れを分析する国際金融論です。私は前者の国際貿易論が専門です。この分野は経済学の最初期から存在する伝統的・基本的なものであるとともに、グローバル化の進展に伴い、極めて今日的なテーマでもあります。

近年のグローバル化の進展により、国際経済学の分野でとり扱うべき仕事は格段に増えています。WTO（世界貿易機関）での世界経済のルール策定交渉や、各国間の貿易協定締結ブーム、自由貿易体制と地域経済との軋轢など、対処すべき課題は増え続けています。しかし、一方でそのための人材は不足しているのが現状です。経済学者は原則論に固執し、反グローバリズム活動家は感情論を振りかざし、交渉に当たる政策担当者は交渉テクニックのしごきあいに終始する、という現状では、広い視野で将来どうあるべきかを見据える建設的な議論は望むべくもありません。きちんとした知識を持ち、感情論に流されず広い視野で議論できる人材が渴望されています。人材が足りないということは、言い換えれば皆さんが卒業後活躍できる余地が非常に大きい分野です。是非興味を持って勉強してみてください。

担当講義について

本年度の担当講義は、国際経済学、市場と経済、ゼミナールです。国際経済学の講義では国際的な経済活動、とくにモノ・サービスの貿易がなぜ行われ、それが経済にどのような影響を与えるかについて理論を紹介します。ゼミナールでは、少人数で世界で今まさに起こっている問題について、より実際の議論を行いながら対応策を考えていきます。1年生の皆さんにとっては市場と経済でまずお会いすることになります。ここでは経済学の基本的な考え方をご紹介します。今後の勉強でずっと出てくる基礎知識ですので、ぜひマスターしておいてください。

- ・時間にルーズなので、少し遅れても大丈夫
- ・終わるのは遅い
- ・ゼミの自由度が高い
- ・具体例が多く、わかりやすい
- ・漢字が書けない
- ・誤字が多い
- ・書き順がおかしい
- ・学生の自主性を尊重している
- ・のりが良く、飲み会にも来る
- ・マイペース

ゼミ生のひとこと



藤井ゼミ1、2期生